

# 地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

平成27年度は、以下の5つの活動について支援を行いました。

## 平成27年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
牧野ヶ池緑地保全協議会	牧野ヶ池緑地の保全
堀川と生活を考える会	9月19日・名古屋環境デーへの「堀川の生物」出展
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦
呼続学区連絡協議会 名古屋市南土木事務所	曾池の池干しによる保全活動
桶狭間学区中町内会 東ノ池を美しくする会 郷前公園愛護会	「緑区東ノ池」の環境保全事業

# 牧野ヶ池緑地の保全

(牧野ヶ池緑地保全協議会) 巾 賢治

## はじめに

牧野ヶ池緑地保全協議会は、自然環境豊かな県営都市公園である「牧野ヶ池緑地」において、活動する団体等が互いの立場を尊重し、牧野池をはじめとした緑地・湿地の保全整備の必要性を共有することで、生物多様性豊かな緑地づくりを目指すことを目的としています。

## 活動内容

保全協議会では毎月第3火曜日に会議を開催し、緑地保全について共有を図りながら活動を行っています。

### ● スイレンの抜き取り調査

牧野池では、平成25年(6月27日)に牧野池全域での分布調査、平成26年(5月31日、6月7日、10月4日)に牧野池の北西側で抜き取り調査を行いました。

今年度は、これまでの活動を継続し5月30日に同じ場所での抜き取り調査を行いました(図1、2)。合計4回の活動によって、約200m<sup>2</sup>でスイレンを取り除くことができたものの、池内には多くのスイレンが生育しており、より効果的な方法を模索しています。



図1. スイレンの抜き取り (2015年5月30日)



図2. スイレンの抜き取り (2015年5月30日)

### ● 牧野ヶ池緑地の生きものを調べよう

8月1日に牧野ヶ池緑地の生きものを調べるイベントを実施し、25名の方に参加していただきました(図3)。

植物ではガガブタやヌマトラノオ、ミズユキノシタなど、魚類ではブルーギルやコイなどの外来種、甲殻類ではテナガエビやスジエビなどを観察することができました。



図3. 牧野ヶ池緑地の生きものを調べよう

これらの活動の他、保護柵の設置等による希少種の保護(随時)、ミニ里山体験(4月4日)、牧野ヶ池緑地まつり(11月14日)なども行いました。

# 細口池の生きもの復活作戦

## はじめに

細口池生きもの復活クラブは、天白区内の細口池において、ツバメのねぐらの復活と、池の生物多様性保全を目的に活動しています。平成 23 年度に協議会の地域活動支援事業により、池に生息する生きもの調査を実施したことに始まり、平成 25 年度からは実質の保全作業にも着手しました。まず、ヒメガマを除去するため協議会の協力を得て、遮光シートを 250 m<sup>2</sup>敷設しました。次年度に調査した結果、完全に根腐れしたことが分かったので北側隣接地にシートを移設しました。また、わずかに残ったヨシを再生するため水面（約 6,000 m<sup>2</sup>）を占有していたヒメガマの根茎除去と併せてヘドロを除去し、水面を池面積の 30% 程度復活させることが出来ました。残りのヒメガマは土木事務所の協力を得て刈取り（刈草マルチング）しました。生物調査と特定外来種の除去は 5 年間継続して行い、協議会から生物調査の指導と資材の貸出しの支援を受けました。

## 活動内容

平成 27 年度調査及び保全作業は、毎月 1 回の定例活動と若干名による常時の活動を行いました。

### ● 定例活動：毎月第 2 土曜日

活動日	活動内容
4月11日	活動計画打合せ、ヨシ生育分布調査
5月16日	ヒメガマ根茎除去・簡易な生物調査
6月13日	ヒメガマの根茎除去と刈り取り
7月11日	ヒメガマの根茎除去と刈り取り
8月21日	生物調査カメラの池内設置
8月22日	生物調査・解説及び特定外来種除去
9月19日	土木事務所の協力を得て、ヒメガマの刈り取り
10月10日	生物調査及び特定外来種除去
11月21日	市民緑地竹林整備に協力
12月12日	遮光シート撤去 250 m <sup>2</sup> ・活動報告会
1月16日	遮光シート袋詰め運搬・集積
2月14日	里山保全活動に協力



全面ガマが占有していた池に水面が復活した

### ● 常時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 2月20日 ほぼ毎日 若干名	ヒメガマの根茎除去・ヘドロの除去、ヒメガマの刈取り、根茎の片づけ、清掃等

（細口池生きもの復活クラブ 代表）浅井正明



ガマの根茎除去作業 シートを裁断して撤去

### ● 生物調査結果：8/22、10/11の2回実施

今回初めてドジョウの仲間、クサガメ、モクズガニが1体ずつ採集できました。カダヤシ、ウシガエルは依然として多数採集できましたが、アメリカザリガニは顕著に減少しました。捕獲した在来種は、池に放流し、特定外来生物は処分しました。



分類群	種名
魚類	ドジョウの仲間、フナの仲間(多い)、モツゴ(多い)、
甲殻類	トウヨシノボリ、カダヤシ(多い)、コイ(目視多い) モクズガニ、スジエビ(多い)、アメリカザリガニ(多い)
は虫類	クサガメ、ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル(幼体多数、成体)
鳥類	バン、アオサギ、コサギ、カルガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、コガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ
昆虫類	ヤゴ(2)、ギンヤンマ、シオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ

※上記の他5年間で確認された種

甲殻類→ミナミヌマエビ、ミシシippヌマエビ / は虫類→ニホンイシガメ / 昆虫類→ヒメズカマキリ / 鳥類→カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ

## まとめ

細口池では5年間の調査でブルーギル、ブラックバス、カムルチーは確認されていません。一方、ニホンイシガメは、3度捕獲され、繁殖も確認されています。生物相に大きなダメージを与える侵略的外来生物の影響は比較的軽微で貴重な在来種の生息が確認されており、今後保全活動を推進していくことでより改善されることが期待されます。モクズガニの生息は、細口池でも生物が海と行き来していることが立証されました。今年度はトンボ類の簡易調査を専門家が実施し、6種の確認に留まりましたが、開放水面の著しい増加、多量の抽水植物の生育、樹林地の成長などによって、今後種の増加が期待されるとの評価を得ました。ヒメガマの除去について、根茎の切除掘り上げ・遮光シート・刈り草マルチングが想定以上の効果を上げ、水位の低下と併せて、ヨシ生育域が著しく増加しました。28年度には、ツバメのねぐらとなるヨシの大群落が形成されることが期待されます。

# 曽池の池干しによる保全活動

名古屋市南土木事務所

## はじめに

- 活動名** 曽池における池干し
- 実施主体** 南区呼続学区連絡協議会  
名古屋市南土木事務所
- 時期** 平成 27 年 10 月 25 日 (日)  
9:00 ~ 12:00
- 場所** 南区呼続四丁目 (呼続公園内曽池)

## 活動内容

呼続公園内にある曽池で、悪臭などの苦情があったことから、池の水位を下げ、浮島（朽ちたスイレン）の撤去、バイク・自転車などの回収を行いました。池の水位を下げるという滅多にないこの機会に、呼続学区連絡協議会の皆様となごや生物多様性保全活動協議会の会員及び南土木事務所の職員が協働して池干しを行い、池の生物の環境学習会も行うこととしました。



池に入る前の準備



タモアミを使って生物の採取



池から上がって手洗い



採取した生物

# 「緑区東ノ池」の環境保全事業

東ノ池『池干し』在来種の生態系保護実行委員会

## はじめに

### 活動名

東ノ池『池干し』在来種の生態系保護活動

### 実施主体

東ノ池『池干し』在来種の生態系保護実行委員会

- ・ 東ノ池を美しくする会（代表会長）－梶野 誠
- ・ 郷前公園愛護会（代表会長）－梶野 茂
- ・ 桶狭間学区町内会及び学区青パトロール隊員

時期 平成 27 年 11 月 7 日（土）  
9:00 ～ 12:00

場所 緑区桶狭間 3002 番地（東ノ池）

## 活動内容

昔は農業用のため池、利水施設として活躍していた池ですが、近年は都市計画で住宅が増えてきて、農業の役目がうすれて、地域の防災・治水用として、役割を変えつつあります。

昔は頻繁に『池干し』が行われましたが、現在は市行政の管轄になり、ほとんど行われません（約 30 年以上）。

そこで、今回町内の協力のもと、池の中に在来種、外来種の数・種類がどの位、の割合で生息しているか、また生態系を崩す、外来種の駆除を目的に、なごや生物多様性保全活動協議会と緑土木事務所の御協力で調査、実施することになりました。



朝の挨拶、調査方法の説明



1回目の調査（東南側）



捕獲した生物の仕分け



2回目の調査（西側）